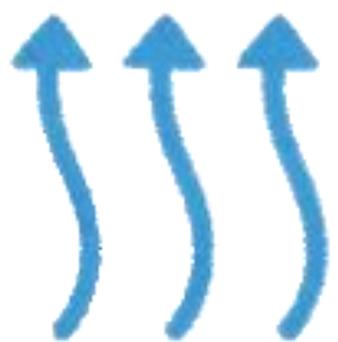


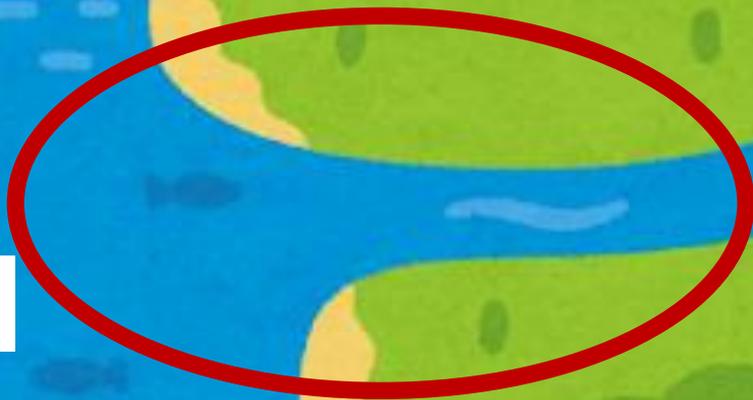
幼小連携・接続 オンデマンド研修動画

- I なぜ幼小連携・接続が必要か
- II ①幼児教育の役割と特長
②幼児教育で育つ力【演習】
- III ①接続期の子どもたち**
②スタートカリキュラム作成のポイント
- IV 特別支援教育と幼小連携・接続
- V 雲南市立斐伊小学校区の実践

Ⅲ ① 接続期の子ども達



幼兒教育



小學校教育

幼児教育と 小学校教育は

環境、教育目的、
教育方法、
評価のあり方などが
大きく違う

しかし

子どもの育ちは 連続している

特に、8歳頃（小2
頃）までは発達の
特性から園児と同じ
「幼児期」にあたる

子どもの立場に立って、
その連続性や一貫性を保つことが必要！

要領・指針

施設種

幼稚園教育要領



幼稚園
幼稚園型認定こども園

保育所保育指針



保育所 保育園
保育所型認定こども園

幼保連携型
認定こども園教育・
保育要領



幼保連携型認定こども園

午前

午後

夕方

3号認定

(0～2歳児 保育の必要あり)

保 育

2号認定

(3～5歳児 保育の必要あり)

教 育

保 育

1号認定

(3～5歳児 保育の必要なし)

教 育

遊び
を通して学ぶ

※一時預かりをする場合もあり

幼児教育における総合的な学び



行ったり来たりしながら
ギャップを埋める

小学校以上での自覚的な学び

(参考)小学校学習指導要領

第1章 総則

第2の4 学校段階等間の接続

教育課程の編成に当たっては、次の事項に配慮しながら、学校段階等間の接続を図るものとする。

- (1) 幼児期の終わりまでに育ってほしい姿を踏まえた指導を工夫することにより、幼稚園教育要領等に基づく幼児期の教育を通して育まれた資質・能力を踏まえて教育活動を実施し、児童が主体的に自己を発揮しながら学びに向かうことが可能となるようにすること。

また、低学年における教育全体において、例えば生活科において育成する自立し生活を豊かにしていくための資質・能力が、他教科等の学習においても生かされるようにするなど、教科等間の関連を積極的に図り、幼児期の教育及び中学年以降の教育との円滑な接続が図られるよう工夫すること。特に、小学校入学当初においては、幼児期において自発的な活動としての遊びを通して育まれてきたことが、各教科等における学習に円滑に接続されるよう、生活科を中心に、合科的・関連的な指導や弾力的な時間割の設定など、指導の工夫や指導計画の作成を行うこと。

※下線は講師

幼稚園教育要領改訂の基本方針

② 小学校との円滑な接続

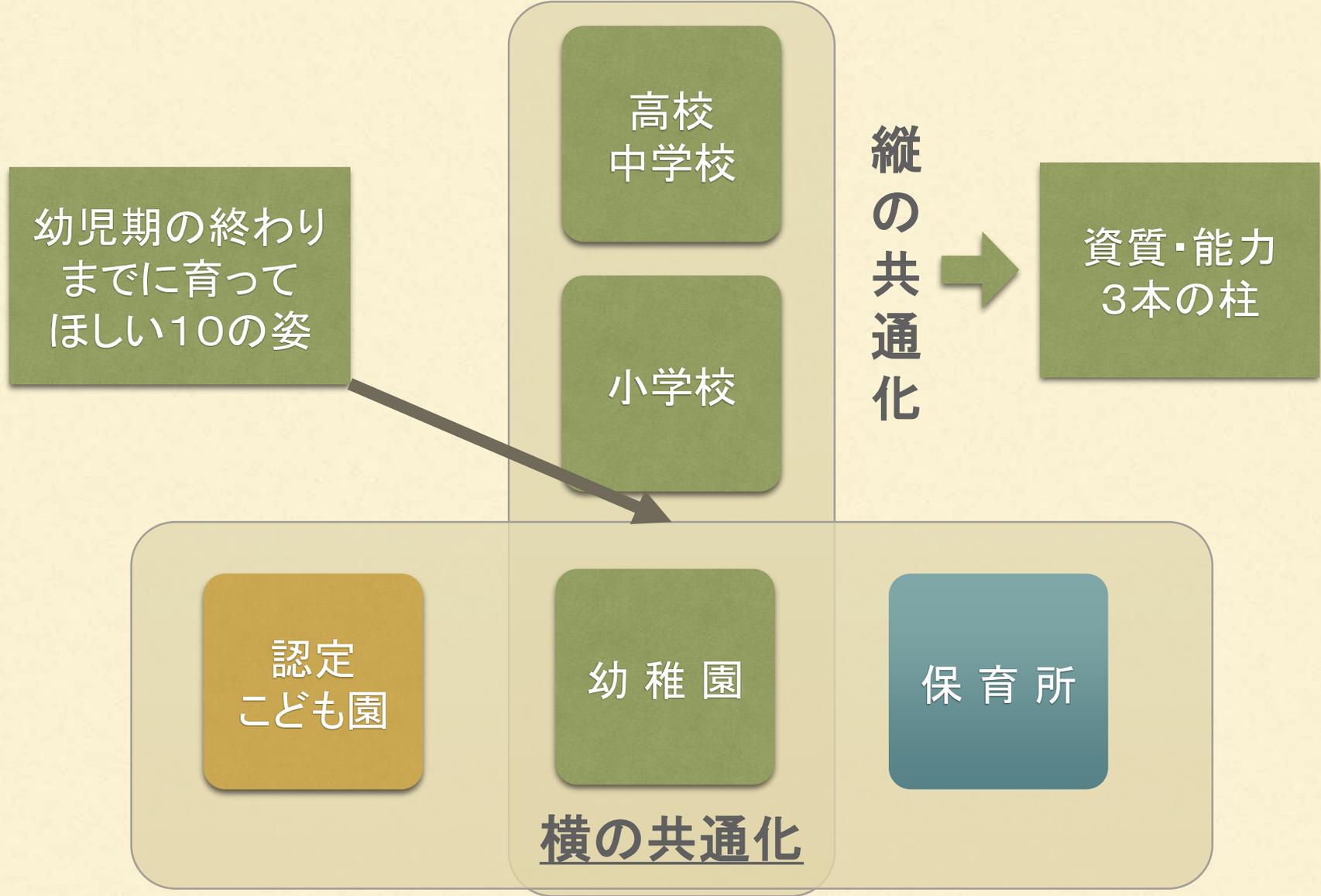
4 保育の実施に関して留意すべき事項

(2) 小学校との連携

第1章 総則

第2節 「教育及び保育の内容並びに子育ての支援等に関する全体的な計画」等

1－(5) 小学校との接続に当たっての留意事項



学びに向かう力
人間性等

どのように社会・世界と関わり、
よりよい人生を送るか

「確かな学力」「健やかな体」「豊かな心」を
総合的にとらえて構造化

何を理解しているか
何ができるか

知識・技能

理解していること・できる
ことをどう使うか

思考力・判断力・表現力等

幼児教育において育みたい資質・能力の整理

知識・技能の基礎

遊びや生活の中で、豊かな体験を通じて、何を感じたり、何に気付いたり、何が分かったり、何ができるようになるのか

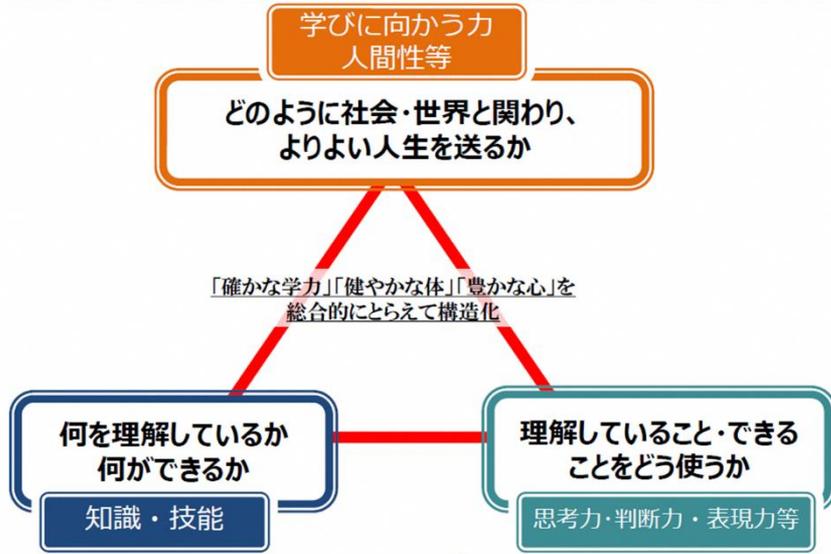
思考力・判断力・表現力等の基礎

遊びや生活の中で、気付いたこと、できるようになったことなども使いながら、どう考えたり、試したり、工夫したり、表現したりするか

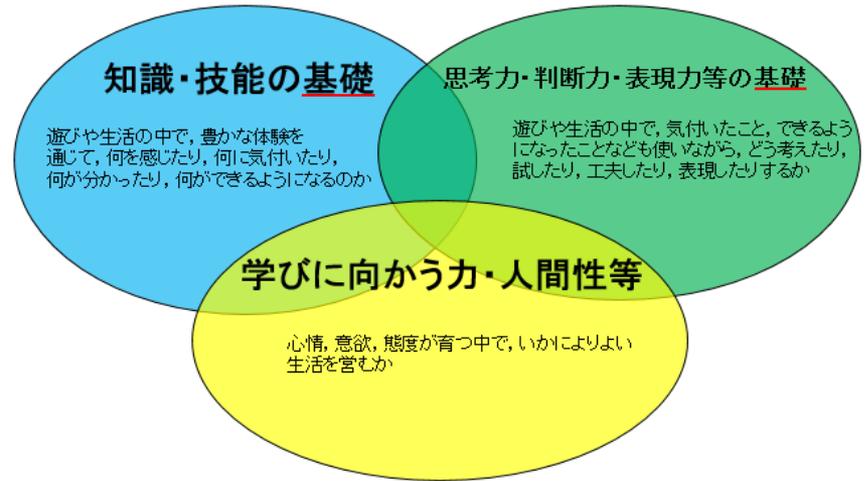
学びに向かう力・人間性等

心情、意欲、態度が育つ中で、いかによりよい生活を営むか

育成すべき資質・能力の三つの柱（案）



幼児教育において育みたい資質・能力の整理



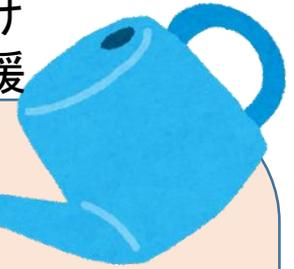
＜今後の対応＞

○授業の質の充実

- ・児童生徒が意欲的に取り組むことができる課題の設定や生活に関わりのある事象の教材化など、主体的・対話的で深い学びの視点を持った授業づくり

○家庭学習の充実

- ・子どもたちの自主的な学びを支援する授業の在り方の研究や家庭との連携



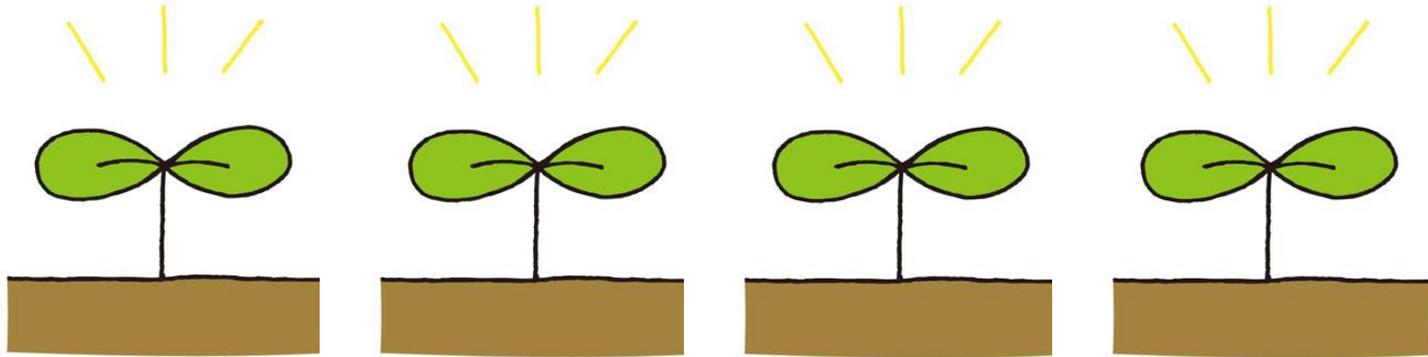
ワクワクする気持ち

楽しい

おもしろい

やってみよう

がんばるぞ



安心できる空間である

やるべきことを理解している

キーワード

「ワクワクスイッチ」を
切らないこと